

会員のページ

★ホームページ「藻類講座」アドレス変更

「藻類講座」というタイトルでホームページを開設して以来、数年が経ちました。このホームページはこれまで福岡市のクリップ社という会社の好意でスタートし、運営してきました。しかし、このドメインを閉鎖するという連絡を受けて、今後の運営をどうするか考慮していました。いく人かの方のご意見を受けて、このほど下記（左下）のアドレスに移行して続けることにしました。これまで通りご覧いただきたいと思います。これからは島袋寛盛さんにもご協力をお願いしています。

このホームページは吉田個人で運営するつもりではなく、藻類に関心を持つ方にひろく利用していただきたいと開設したものです。藻類学会会員の皆さんからの情報によってさらに内容を充実させることを期待しています。ただホームページ専用のメールアドレスを持っていませんので、吉田(ICB62657@nifty.com)あてにご連絡ください。

(吉田忠生)

<http://www.sourui-koza.com/>

★ひろしま生きた自然博物館がDVDを製作

瀬戸内海国立公園を背景にした「ひろしま生きた自然博物館」が、元宇品を中心に海藻・海岸動物・原生林・地質など分かりやすく理解できるよう自然環境学習のためのDVD（映像）およびCD（ワークシート）を開発しました。



この教材を利用すれば指導者がいなくても子どもと保護者が身近に自然体験を味わうことが出来ます。このことよって将来を担う理科好きの子を育てることを目的としています。広島県内の学校と公民館へ無料配布しておりますが、HPよりインターネット配信もしております (<http://www.hlnm.jp/>)。お問い合わせ先：事務局長 松本雅充（広島市草津公民館長）
E-mail: kusatsu-k@hitomachi.city.hiroshima.jp。

(田中 博)

★海藻押し葉コーナー（瀬戸内海区水産研究所）

毎年7月に開催されている瀬戸内海区水産研究所（広島県廿日市市）の一般公開では、海藻押し葉ハガキ作りがイベントとしてすっかり定着しています。「もっと知りたい瀬戸内海」をテーマに開催された昨年度は602人が来場、お魚タッチプールや研究調査船見学が人気を博す中、押し葉ハガキも200人余りの人が作成しました。作成にあたっては、用意した官製ハガキの表面にお届け先の住所を記載してもらい、裏面に色とりどりの海藻で好きなデザインを描いてもらいます。乾燥後、職員がラミネートシートに挟み込み投函し、忘れた頃に夏休みの思い出が届くというしくみです。例年夏枯れシーズンに開催されるため、材料の海藻集めに職員は一苦労。人気があるのは、ユカリやアオサなど色鮮やかな素材。フサイワズタやホンダワラ類の葉はその形状が喜ばれます。不運にも海藻といっしょに採集されてしまったヨコエビやカニ達も、子供達にとっては大事な役者です。毎年驚くばかりの見事な芸術から、ひたすらてんこ盛りの‘大作’まで様々な作品が出来上がります。さあ、今年はどうな力作が出来るかな？ 来る7月19日に開催予定です。



(吉田吾郎)

★誌上アンケート「イワズタ・イワツタ問題」

前々号で吉田先生に回答いただきましたこの問題（詳細は55巻2号）、その後まったく反響がありませんでしたので、このたび会員の皆様へ誌上アンケートを行うことにいたしました。吉田先生が指摘されましたように、「現代仮名遣い」（昭和61年内閣告示）において本則は「ず」で、その例外として二語の連合によって「づ」を生じた「みかづき（三日月）」が挙げられています（55巻3号p.235）。また、例外の例外として「稲妻」のように二語に分解しにくいものは「ず」「づ」どちらでも書けるともされます。下記の項目についてご回答をお寄せいただけましたら幸いです。

- 問1 どちらの表記を使いますか。
1. イワズタ 2. イワツタ 3. 両方 4. その他
- 問2 どちらの表記を使いますか。
1. モズク 2. モヅク 3. 両方 4. その他
- 問3 どちらの表記を使いますか。
1. ミカズキモ 2. ミカヅキモ 3. 両方 4. その他
- ご回答は編集長へ、葉書かメール (kitayama@kahaku.go.jp) のどちらかをお願いいたします。締切は8月31日。集計結果を次号に掲載する予定です。

(編)

★学校で海藻標本展（横浜清風高等学校）

横浜清風高等学校（横浜市）では、2008年度入学式（4月8日）から2週間、神奈川県藤沢市江ノ島周辺の海藻標本を、南校舎と北校舎をつなぐ廊下に展示しました（下の写真。撮影：横浜清風高校写真部）。横澤はこれまで、江ノ島周辺で採集した約150種類2900枚の海藻標本を作製してきました。今回の標本展では、海藻研究の歴史が深い江ノ島の海藻を知ってもらうため、江ノ島を基準産地とする30種と、磯や打ち上げで普通に見られる58種の計90枚を展示しました。壁一面に並んだ海藻は壮観で、「こんなに江ノ島で見ら



れるの!?',「海藻ってすごくきれい!!」と生徒達の評判も上々でした。学校関係者や来校者の方々にも見て頂き、「1500人の海藻ファン」を増やせたと自負しております。

（横浜清風高等学校 横澤敏和）

★海藻標本のご寄贈に感謝（科博, TNS）

国立科学博物館大型藻類標本室（TNS, つくば市）では、海藻標本の寄贈を歓迎しております（詳細は55巻2号の本欄をご覧ください）。今年に入ってから下記の方々から貴重な標本を寄贈していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

中庭正人先生（ひたちなか市）より、茨城県産海藻標本245点。昨年55巻3号に掲載の「茨城県沿岸域の海藻相」（pp. 195-198）の証拠標本が含まれています。

横澤敏和先生（横浜市）からは、江ノ島周辺の海藻標本が188点。主に2005年から2007年にかけて同海域でなされた海藻植生調査の証拠標本で、今春、ご勤務先の高校にて展示されたものも含まれています（詳細は上の記事）。

（北山太樹）

本欄への御投稿をお待ちしています。
本文400字以内と写真1枚でお願いします。
編集部まで。 （編）



藻類木彫りアート

山岸高旺先生から芸術品が届きました。以前より噂には聞いておりましたが、これほどの名品揃いとは予想しておりませんでした（カラーでお見せできないのが残念）。いずれの図案も題材が藻類からとられており、鎌倉あたりの寺社の宝物殿に置かれようものなら考古学者を悩ませそうな趣のある作品群です。

じつは山岸先生には、来年8月に東京で開催される第9回国際藻類学会議（IPC9, 詳細は前号 p. 48）の会場でこれらの作品を展示即売グッズとして出品していただけないか、交渉中です。皆様からもこのような藻類アートのご出品をお待ちしております（連絡先：北山 kitayama@kahaku.go.jp）。 （編）

図1-10 山岸高旺木彫りアート

- 1-5. プローチ。1-2. クンショウモ, 3. フシナシミドロ, 4. ツヅミモ, 5. タマイタダキ。
6-7. ペンダント。6. ミドリムシ, 7. フシナシミドロ。
8-10. ペーパーナイフ。8. フシナシミドロ, 9-10. タマイタダキ。

